新聞　（第3種郵便物認可）

資料5
2017.10.13

ぬくもり、音で木育

間伐材おもちゃ商品化

愛教大教授が考案 地域材の魅力伝える

愛知教育大学（刈谷市）の樋口一成教授(53)（幼児教育講座）が考案した木のおもちゃを、長野県根羽村と村森林組合が商品化した。愛知県豊田市に隣接する中山間地の杉やヒノキの間伐材を使ったぬくもりのあるおもちゃを通して、「地域材の大切さや木の魅力を伝えたい」としている。

（黒岩宏行）

商品化された木のおもちゃを手にする樋口教授（右）と今村さん

樋口教授が「木のおもちゃ」を作り始めたのは、大学院生だった頃。当初は、子どもたちが新しい形や動きを見つけていく発見の過程を研究するために、作り始めたのがきっかけだという。

その後、重力によって動く木のおもちゃの制作を続け、丸棒の付いた玉が不規則な動きで坂を転がったり、玉が「コトンコトン」と心地よい音を響かせながら、らせん階段を転がり降りたりする作品を個展や学会で発表している。

一方、根羽村は、森林整備に力を入れている。教育や福祉にも地域材を使った取り組みを進め、小中学校で身近な木を使う遊びや小物作りといった「木育活動」を行っている。

村森林組合参事の今村豊さん(57)が2014年12月から15年3月にかけて、岡崎市の「おかざき世界子ども美術博物館」で開催された樋口教授の展覧会を訪れ、「木育活動に合った作品で、根羽の森の自然を感じられるおもちゃができる」として商品化を持ちかけた。

商品化したのは、小型と大型の2種類のタイプでそれぞれ25点ずつ製作した。小型のタイプ（税抜き9000～2万7500円）は長さ60㌢前後で、大型のタイプ（同2万3000～11万9000円）は約5倍の大きさで横型は長さ3㍍ほど、縦型は高さ2㍍ほどとなっている。

同大で発表した樋口教授は「小型のタイプは家庭でも遊ぶことができ、大型のタイプは幼稚園や美術館で子どもや利用者が楽しめる」とアピールした。今村さんは「稼働テストを繰り返し、国産材の良質なおもちゃができた」と語った。

「ｎｅ　ｉｒｏ」と名付けて11月1日から同森林組合で販売する。詳しくは同森林組合事務局（0265・49・2120）。

投票用資材 準備始まる

会派となる。公職選挙法では、欠員が定数の6分の1

シャチホコもお月

中日		毎日	朝日	読売
東三河版	東濃版			
平成29年	10月5日(木)		朝刊	27面

「中秋の名月」の4日、県内でも月に近い形の月が見られた。名古屋市中区では、鮮やかな月が澄みきった夜空に姿を現し、名古屋城のシャチホコを照らしていた。

日本気象協会のホームページによると、今年の満月は10月6日。月の満ち欠けが基準の旧暦は1年が短く、季節とのずれを修正するためほぼ3年に1度閏(うるう)月を入れている。このため、例年であれば9月中に訪れる中秋の名月が、今年は10月となった。

ヒューマン&ファミリー部門「夏

◆入選「冷たいでしょう」

浅岡由次さん（知立市）